



# LINUS System

## クイックスタートガイド

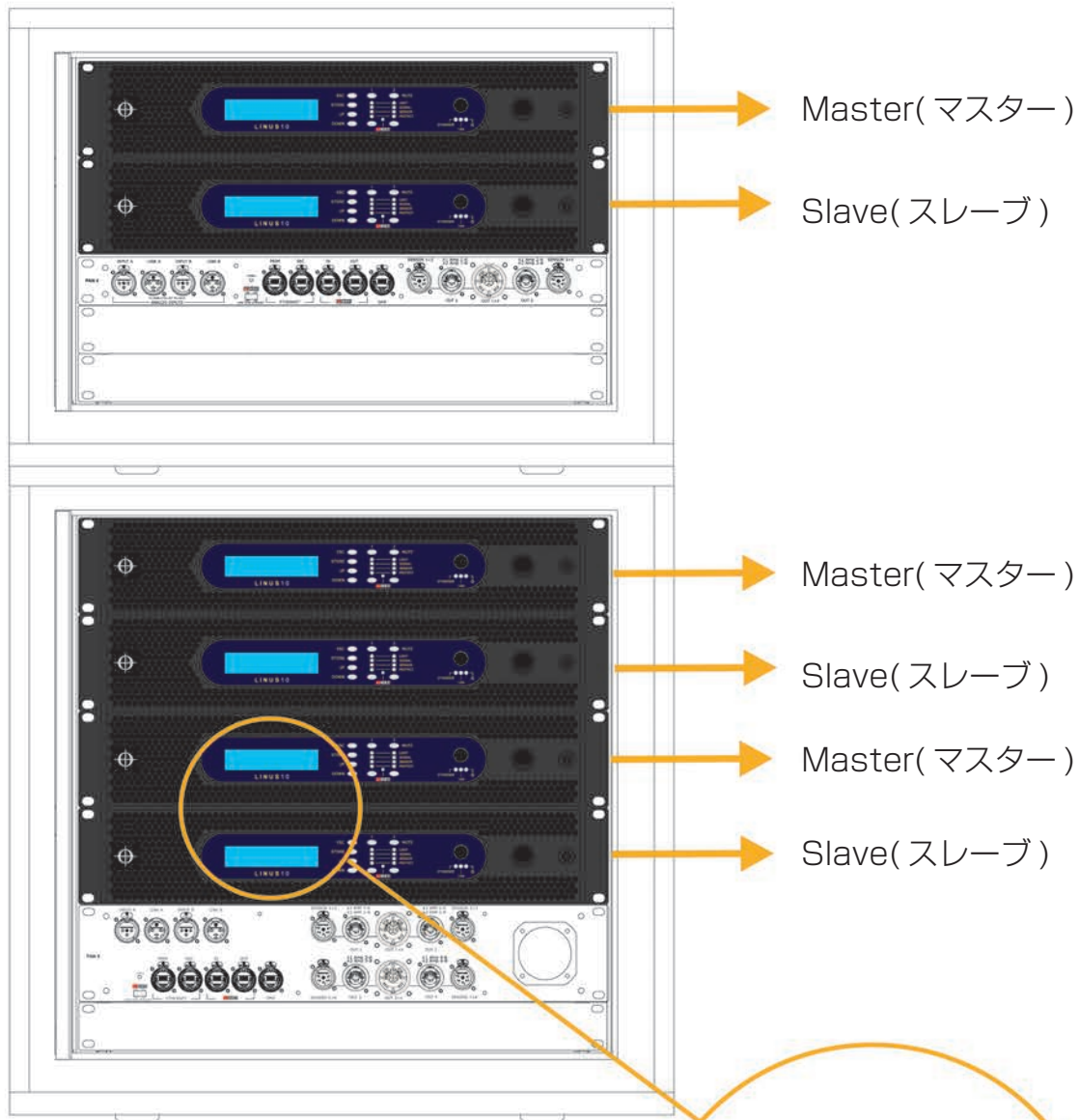
LINUS LIVE V1.2.0 Beta  
2017/1/20



1. LINUS Rack 20/40 内の Master(マスター) / Slave(スレーブ) 構成を確認します。



ラックの構成は、前面パネルにケーブルを接続する前に行ってください。

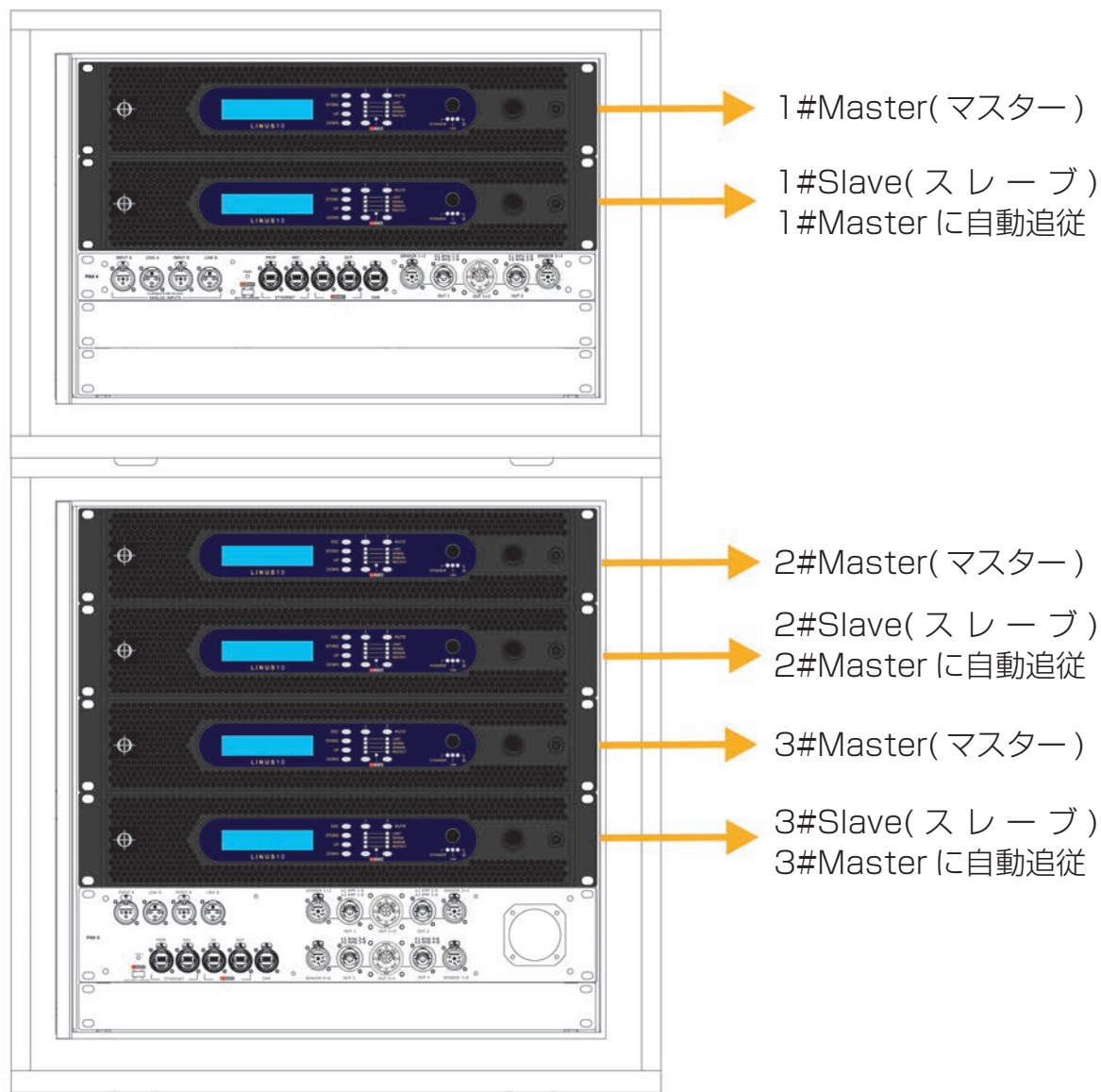


```
Linus10  Master  #03
P 14:ViRAY-A
I 1_LF  1_HF
G 0.0   0.0
-----
Linus10  Slave   #03
P 14:ViRAY-A
I 1_LF  1_HF
G 0.0   0.0
```





## 2. モジュール番号の割り当て



マスターユニットでモジュール番号を選択し、ロータリーエンコーダーを押して実行すると、マスターユニットは機器スキャンを開始します。スキャンが終了すると、「Device Found 1」（これがスレーブユニットです）というメッセージが表示されます。スレーブユニットはマスターユニットに自動で追従します。

ユニットのディスプレイの最後のページで IP アドレスを再確認します。

モジュール #1 の例 - マスター：xxx.xxx.xx.01 /スレーブ：xxx.xxx.xx.02

モジュール #2 の例 - マスター：xxx.xxx.xx.11 /スレーブ：xxx.xxx.xx.12

ラック全体の電源をいったん切り（電源スイッチを OFF にしてから電源ケーブルの 1 次側プラグも抜いてください）、5 分間待ってから電源を入れなおします。Master(マスター) / Slave(スレーブ) の IP アドレスが正しい順序になっていない場合は、モジュール番号の割り当てを繰り返します。





## 1. ネットワーク構成の設定

イーサネットケーブルでラックを接続します (PRIM/ SEC 端子)。

下の例はデジチェーン接続の場合です。4ラック程度までのシステムで便利です。  
よりラック数の多いシステムでは、スイッチハブを使って各ラックへスター接続して  
ご使用ください。

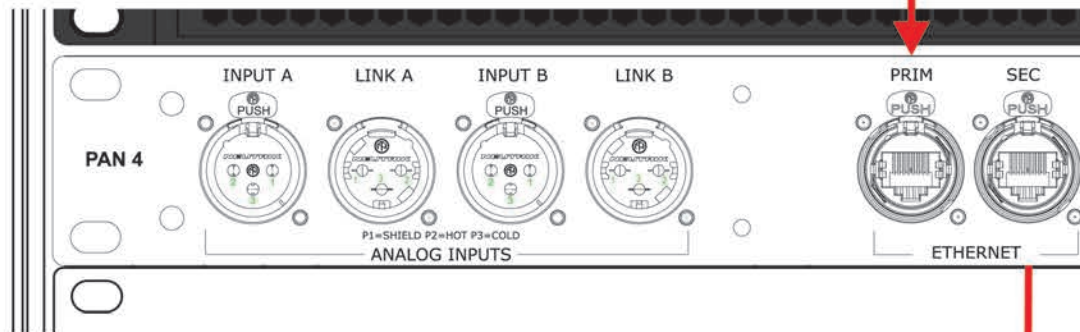
スタティック IP を設定 :

IP : 192.168.1.20

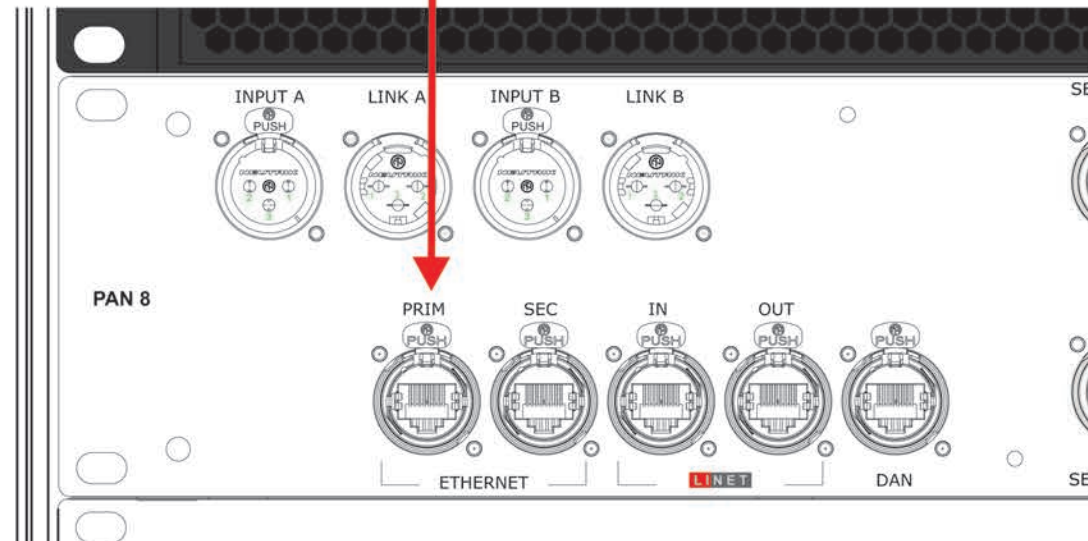
SN : 255.255.0.0



LINUS Rack 20



LINUS Rack 40





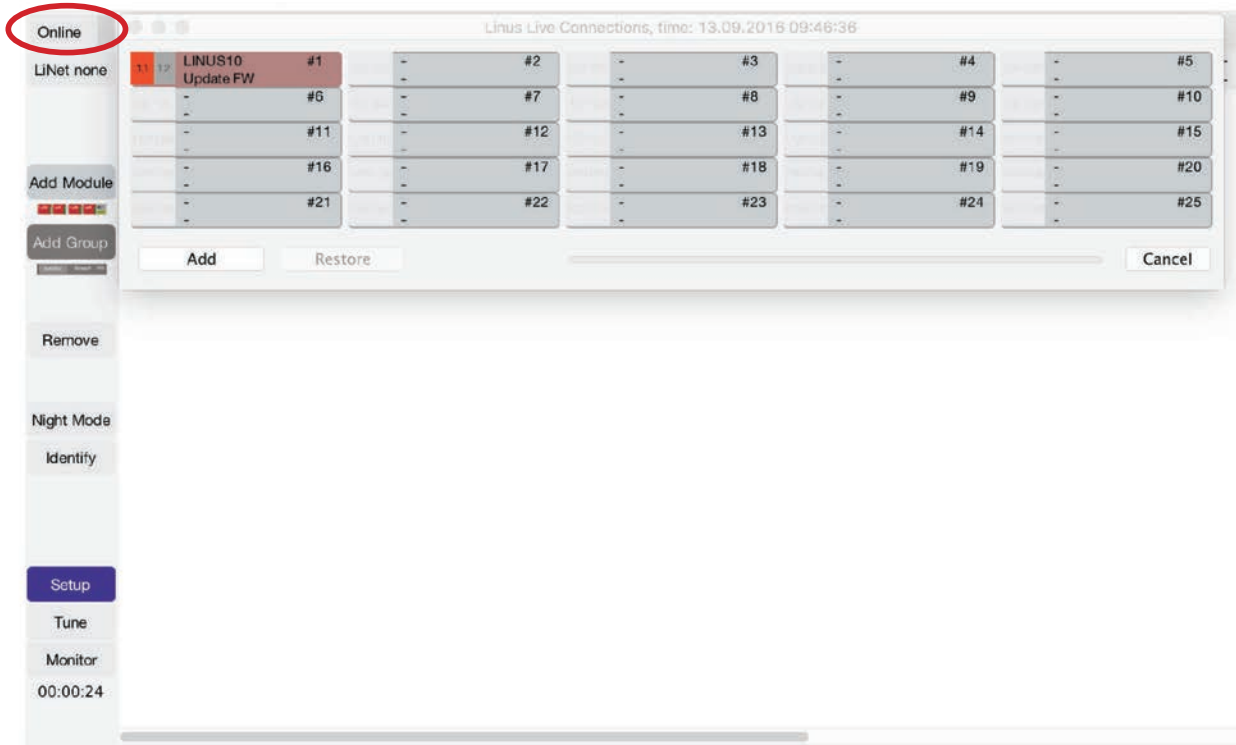
## 2. ネットワークのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスが始まります。



ネットワーク上の使用可能なユニットが表示されます。

スキャン結果がハードウェアと一致しない場合、機器とネットワークのセットアップを再度確認してください。

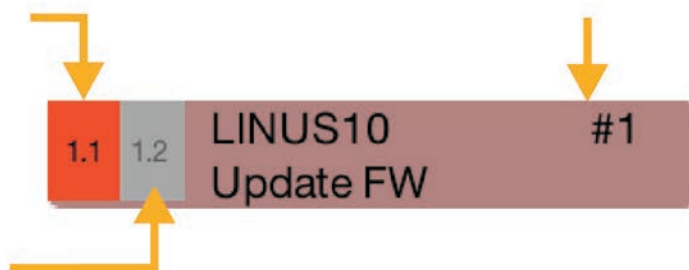
マスター

IP:XXX.XX.XX.01

モジュールナンバー (#1)

スレーブ

IP:XXX.XX.XX.02



この例は機器を初めて接続した場合を示しています。

LINUS Live ソフトウェアには新しいファームウェアバージョンのデータが含まれています。





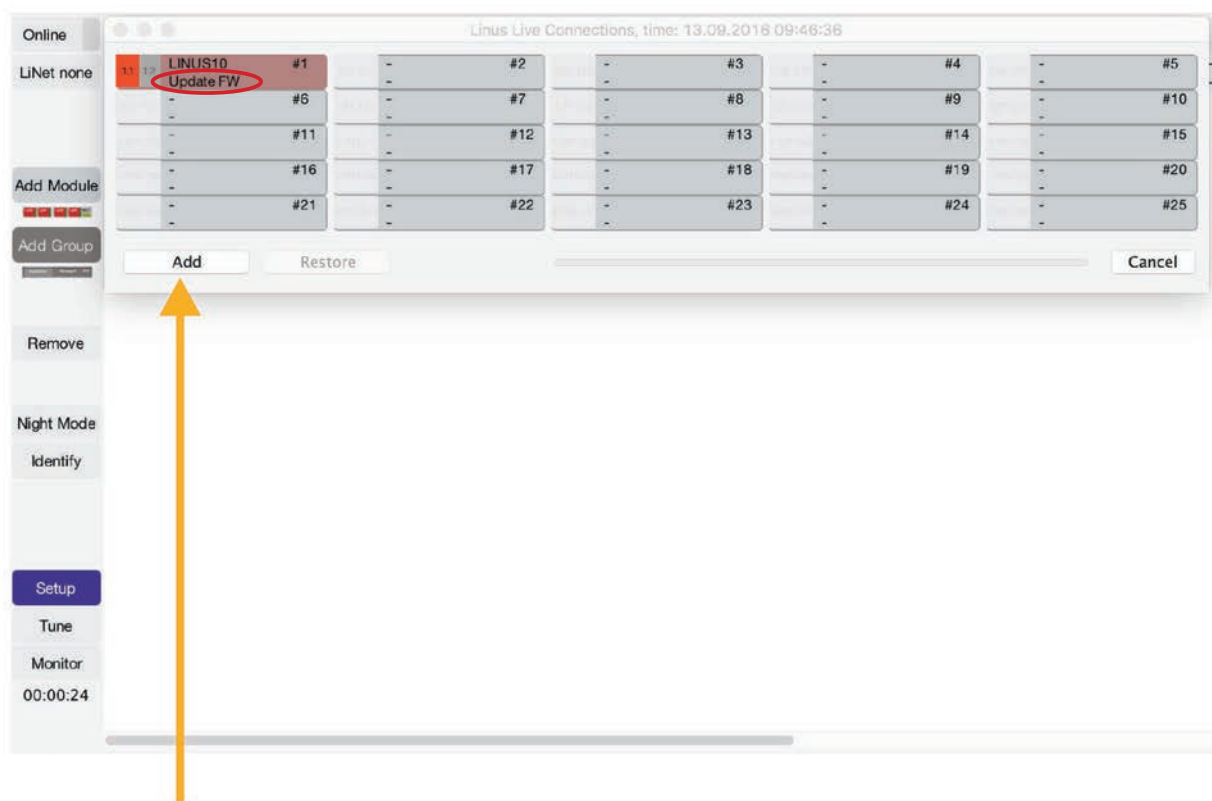
## 1. ネットワーク／アップデートのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスウィンドウは、新しいファームウェアがあることを知らせます。



ここで、接続された機器のファームウェアをアップロードする必要があります。

「Add」ボタンを押して全てのモジュールをセットアップスペースに追加します（次のページのステップ2）。

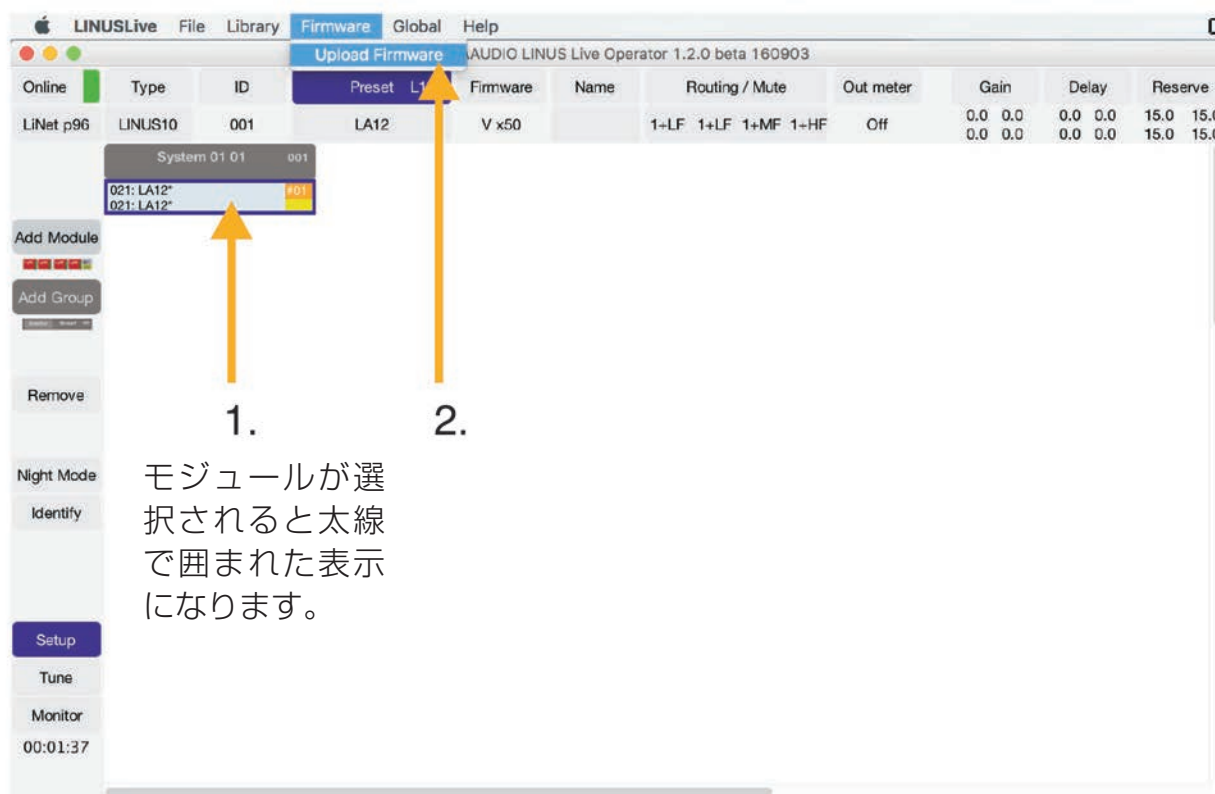




## 2. ファームウェアのアップデート

LINUS アンプ、LINUS CON 本体へのファームウェアです。プリセットライブラリーへのデータは別に存在します。

- (同じタイプの)モジュールを全て選択します。左クリックか左クリックしたままカーソルを通過させると選択されます。
- メニューの「Firmware」から「Upload Firmware」を押します。



ファームウェアのアップロードが完了するまで待ちます。

ファームウェアアップデートが完了すると自動的に LINUS Live が閉じ、LINUS 10 が再起動します。

### ※注意

一度にアップデートできる LINUS10 ユニットは 8 台 (LINUS RACK 40 (4モジュール) × 2基相当) までです。





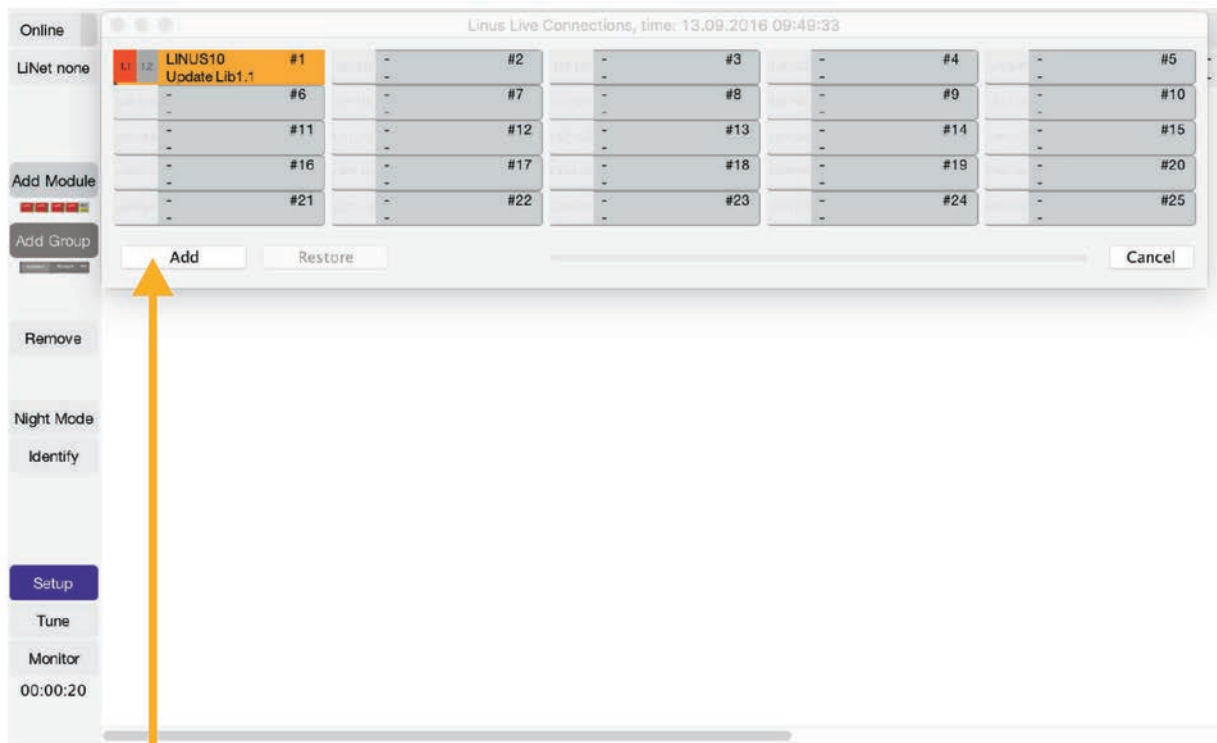
### 3. ネットワーク／アップデートのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスウィンドウは、認識された機器の（Linus Live 内にある）新しいプリセットライブラリーがあることを知らせます。



ここで、接続された機器のプリセットライブラリー (CODA スピーカー全製品のプリセットデータ) をアップロードする必要があります。

「Add」ボタンを押して全てのモジュールをセットアップスペースに追加します (次のページのステップ 4)。



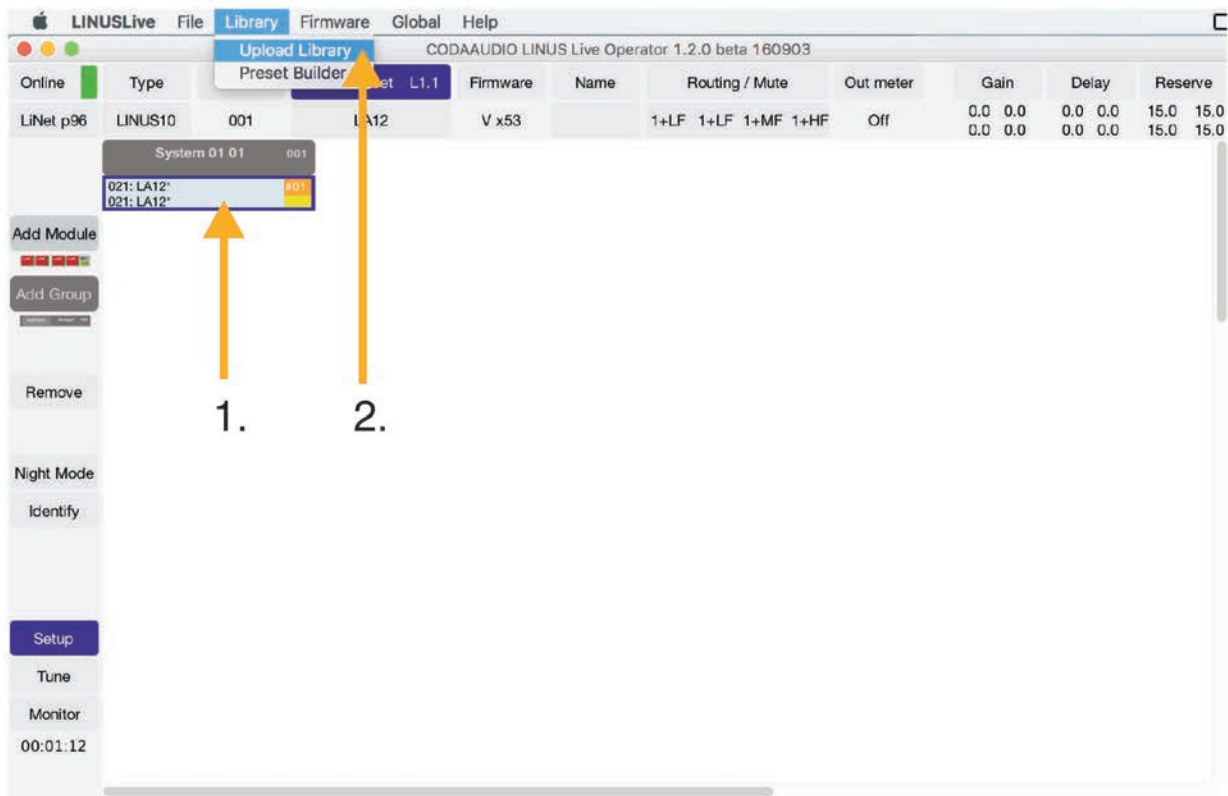




## 4. プリセットライブラリーのアップデート

※「プリセットライブラリー」とは、CODA スピーカー全製品のプリセットデータターです。

- (同じタイプの) モジュールを全て選択します。
- 「Library」 → 「Upload Library」 を押します。



ライブラリーのアップロードが完了するまで待ちます。

ライブラリーのアップデートが完了すると LINUS Live は自動的に閉じます。





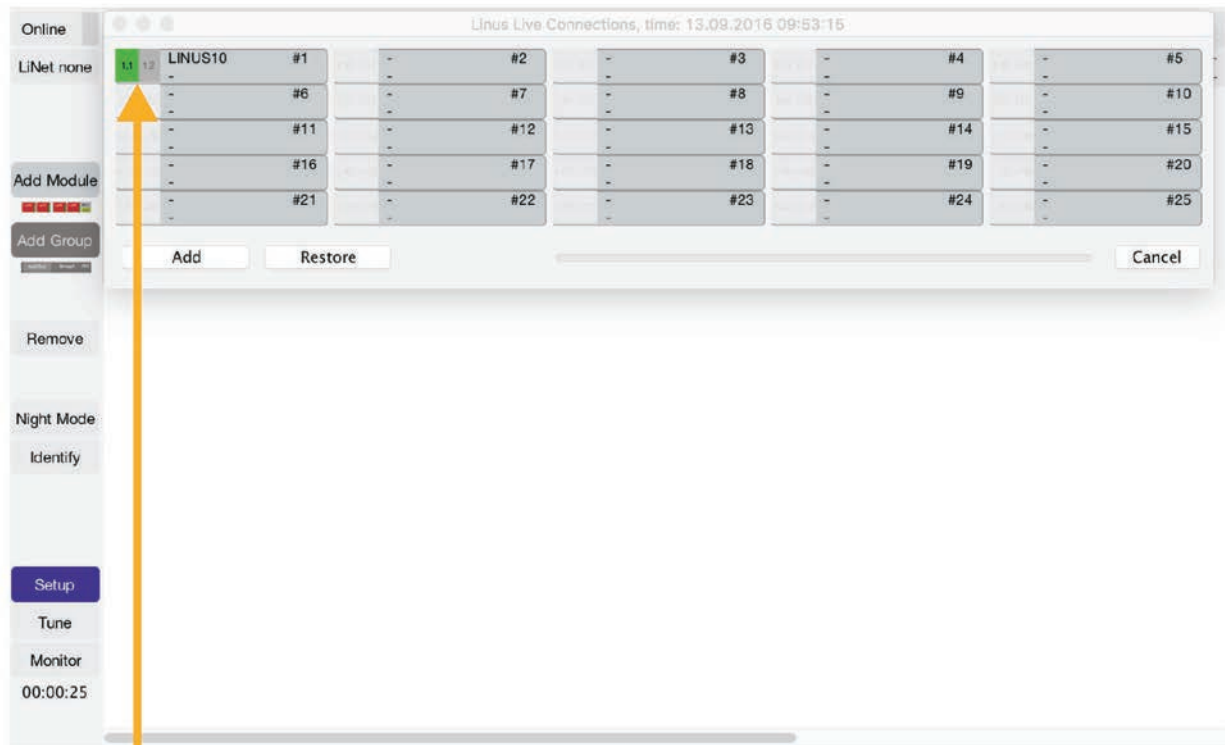
## 5. アップデート後の環境

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスウィンドウは、アップデート後の機器環境について知らせます。



これで、LINUS Live の操作を開始できる状態になりました。

詳細は LINUS の取扱説明書を参照してください。



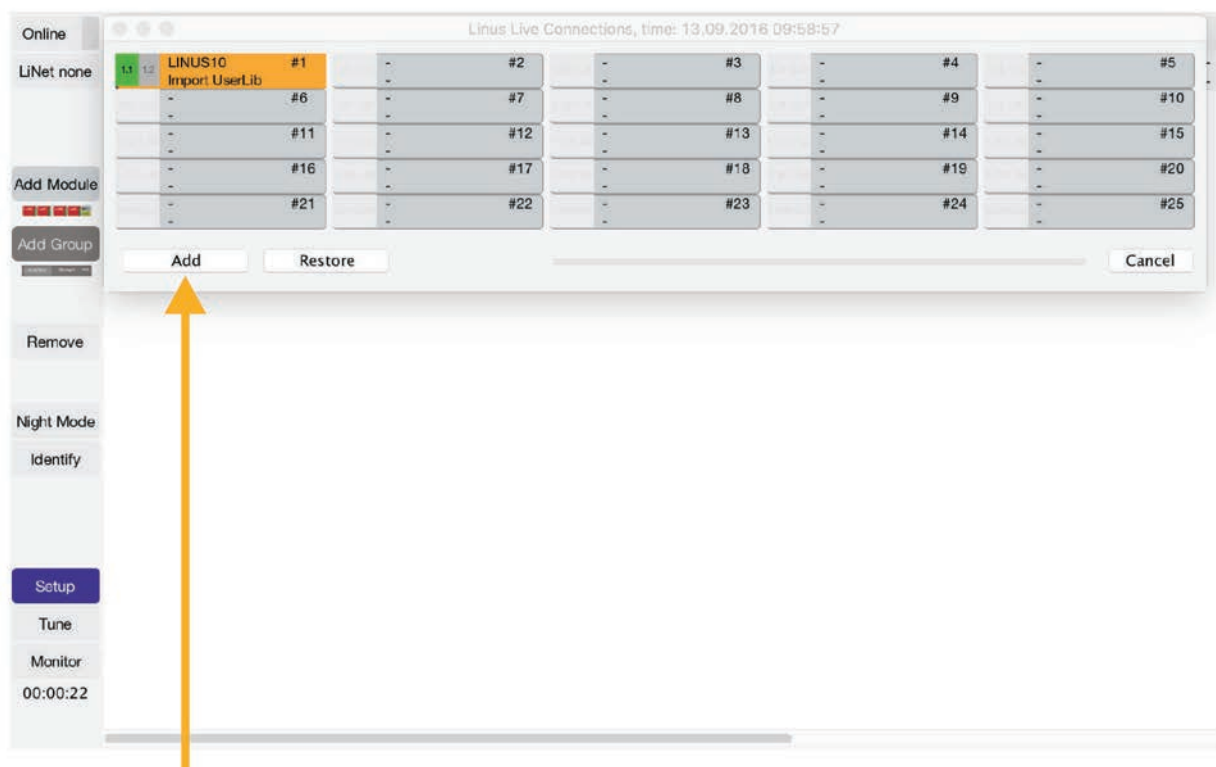


## 1. ネットワーク／アップデートのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。 → 

LINUS Live に搭載されている Preset Builder(プリセットビルダー)アプリケーションで新しいカスタムプリセットを作成した後、システム内の全ての機器にプリセットライブラリーをアップロードする必要があります。

機器スキャンプロセスウィンドウは、ネットワーク上で認識された機器のユーザーライブラリーに相違があることを知らせます。



ここで、接続された機器のプリセットライブラリーをアップロードする必要があります。「Add」ボタンを押して全てのモジュールをセットアップスペースに追加します（9ページのステップ9を参照）。

Preset Builder(プリセットビルダー)アプリケーションの詳細は Preset Builder(プリセットビルダー)の取扱説明書を参照してください。





## 2. Preset Builder ライブラリーのエクスポート／インポート

Preset Builder(プリセットビルダー)でユーザーライブラリーを保存し、LINUS Liveを閉じると、新しい「Key(キー)」ファイルが自動的に生成されます。

変更を適用した場合、新しい「Key(キー)」ファイルが生成されます。

Key(キー)ファイルには、プリセットおよびスピーカーに関する必要な情報が全て含まれています (Key(キー)ファイルの例: PresetLib 1.2 key1450245279632.zip)。

モジュール、システムセットアップファイル、および LINUS Live が同じキーファイルに基づいて動作している必要があります。

### ※注意

各ユニット (LINUS10、LINUS 10C、LINUS 5C、LINUS Con) において必要な各ユーザープリセットライブラリーを機種ごとに作成し、各ユニット別に一度にアップロードすることをお勧めします。

Key(キー)ファイルは以下のディレクトリーの中にあります。

Windows :

C:\Users\xxx\LINUS Presets

Mac:

/Users/xxx/LINUS Presets

Export(エクスポート)

- 生成された Key(キー) キーファイルをターゲットコンピューターにコピー／ペーストします。

Import(インポート)

- Preset Builder(プリセットビルダー)のキーインポート機能を使用します。

7. Store Userbank

Default Userbank

Import Userbank



### ※重要

Key(キー)ファイルをインポートし、システム内の全てのユニットにアップロードした後は、LINUS Live ソフトウェアを再起動してください。





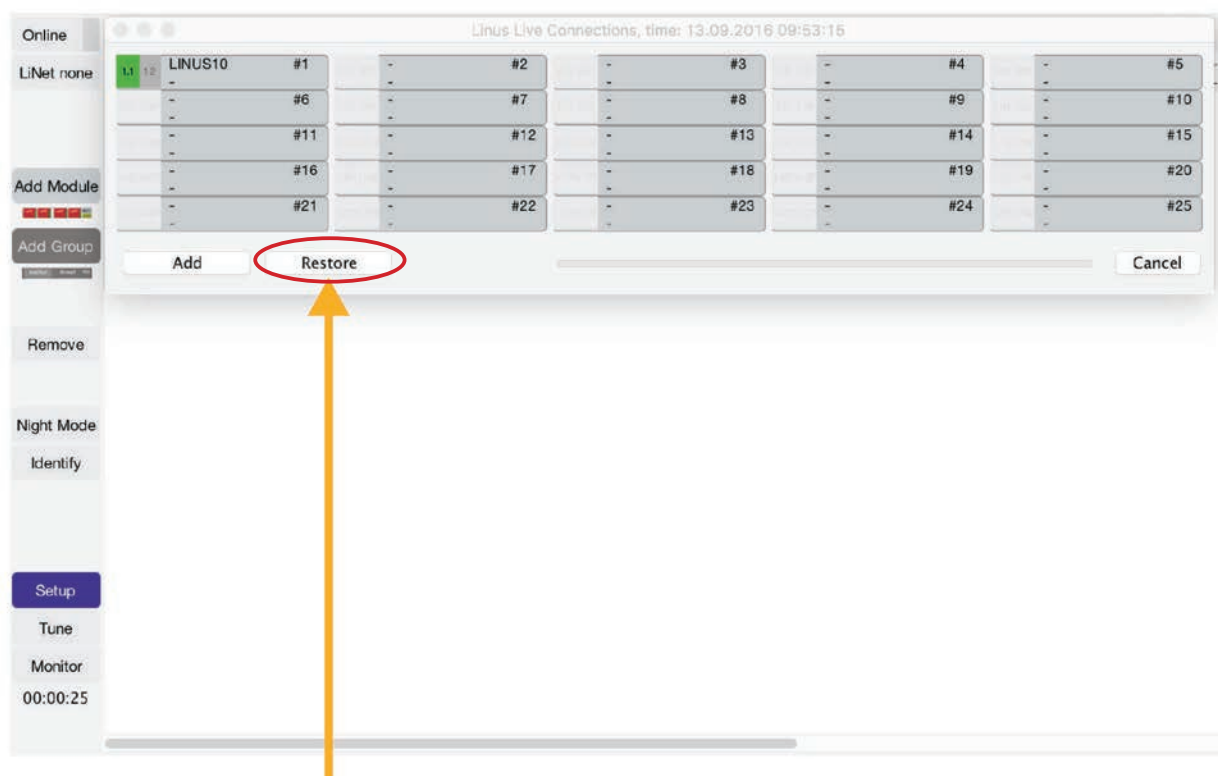
## 1. 同じコンピューター上でのシステムの Restore(復元)

システムをオンラインで設計した場合、パラメーターまたはシステム構成を変更していなければ、いつでも同じコンピューター上でシステムを Restore(復元) できます (例: ネットワークの切断や意図しない電源のシャットダウンなどの場合)。

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online



設定された構成が変更されていない場合は、システムセットアップを復元できます。

(参考)

Restore(復元) は、各 LINUS 機器内に保存されたデータをコンピューター側へロードさせています。



2. 別のコンピューター上でのシステムの復元（システムはそのままでコンピューターのみを交換する場合）

システムセットアップを作成したコンピューターからプリセットライブラリーキーをインポートする必要があります。

手順は 12 ページのインポート機能を参照してください。

7. Store Userbank

Default Userbank

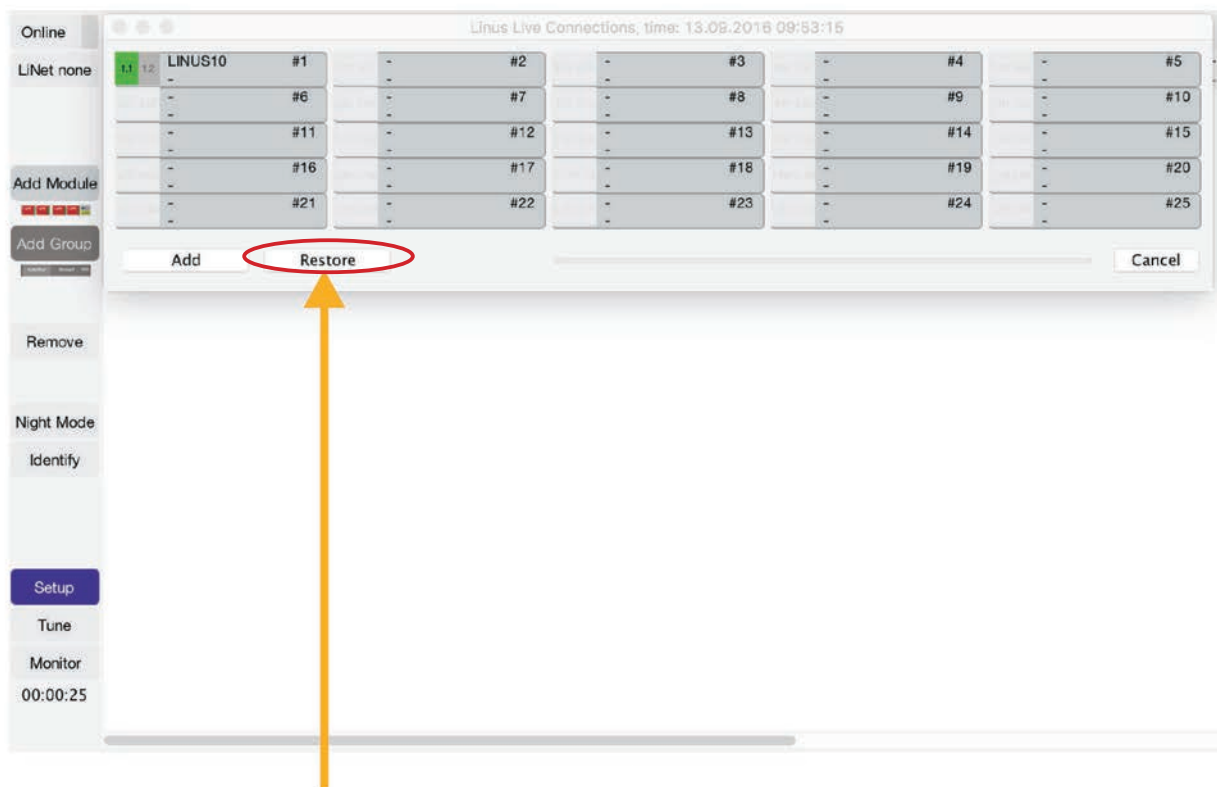
Import Userbank ←

**※重要**

**Ket(キー) キーファイルのインポート後は LINUS Live ソフトウェアを再起動してください。**

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。

Online



これで、別のコンピューター上でシステムセットアップを復元できます。



### 3. 結論として

LINUS のリモートシステムは、コンピューターと LINUS ハードウェアの両方で同じキーファイルが使用されていないと同期しません。

